

令和6年度「初夏の里山で身近な生き物を探そう！」

日時 令和6年6月8日（土） 午前9時00分から

行程 一宮支所駐車場 集合 → 金沢町岡畑地内 → 旗頭山（旗頭山尾根古墳群）
→ 一宮支所駐車場 解散

当日の様子



今回の「初夏の里山で身近な生き物を探そう！」は旗頭山で開催しました。

当日は13人が参加して、東三河自然観察会の天野保幸先生達と旗頭山周辺に生息する動物や植物などを観察しました。一宮支所駐車場に集合してバスに乗り、金沢町にある旗頭山へ向かいました。豊川用水牟呂松原幹線水路にかかる長慶寺橋の手前で降車すると、周辺の田んぼや畑でみられる生き物も観察しながら旗頭山へ向かって歩きました。私たちが道端で見かける植物には外来種も多くみられ、シロツメクサやニワゼキショウ、ユウゲショウなど花の名前を教えてくださいました。

旗頭山を下から眺めると大きな木が少なく見えました。この山ではカワラナデシコやシモツケなど、開けた場所に生育する植物が観察できました。旗頭山の地質は蛇紋岩じやもんがんからなる山で、蛇紋岩にはマグネシウムや鉄などが多く含まれています。マグネシウムは植物の水の吸収を妨げるため、旗頭山では大きな木が育ちにくく草原のようになっていることを天野先生が教えてくださいました。

また蛇紋岩は磁石にくっつくことも教えてください、子どもたちは足元の石を拾っては磁石に近づけ、その石が蛇紋岩かどうかを次々に試していました。



↑ 田んぼにいる生き物を観察



↑ 磁石にくっつく蛇紋岩を観察



↑シモツケ



↑カワラナデシコとホタルブクロ



↑テリハノイバラ



↑水で湿らせたオオバコの種を観察

観察した主な植物等

アカメガシワ、アルストロメリア、アレチハナガサ、イヌザンショウ、エノキグサ、エノコログサ、オオツメクサ、オオバコ、オッタチカタバミ、カワラナデシコ、コハコベ、シロツメクサ、シモツケ、セイヨウタンポポ、セッカニワゼキショウ、ツボミオオバコ、テッポウユリ、テリハノイバラ、ナズナ、ニワゼキショウ、ニホンタンポポ、ノアザミ、ハキダメギク、ハマハナセンブリ、ヒメジョオン、ヒメシャラ、ヒメニワゼキショウ、ホタルブクロ、ホトケノザ、マルバツユクサ、ムシトリナデシコ、ムラサキカタバミ、ユウゲショウ、ロウバイ 他

観察した主な動物

カイエビ、ガガンボ、キアゲハ、キリギリス、コアオハナムグリ、コガネムシ、コムスジ、ジガバチ、ショウリョウバッタ、スクミリンゴガイ、タイワンタケクマバチ、チュウサギ、チュウレンジハバチ、ツチイナゴ、ヒル、ミツバチ、モンシロチョウ 他

参加者の声（参加者アンケートより抜粋）

- ・先生からたくさんの知識を覚えてもらえて子どもたちが楽しそうだったので、参加してよかったです。
- ・旗頭山に高木が少ない理由を知りたいと長年思っていたが、今回の講座で謎が解けてスッキリした。

などのご意見をいただきました。